

web 版

社教ニュース

ときたまご



令和7年3月26日（第8号） 山形市教育委員会社会教育青少年課

南山形小学校見守りサポーター～「熟議」で生み出された地域学校協働活動～

令和6年10月10日、南山形小学校では第2回学校運営協議会が開催され、「学校と地域がパートナーとなって子どもを育てるために」というテーマで熟議が行われました。学校と地域がパートナーとなって子どもを育てることには、学校はもちろん、子どもたちや地域にも大きなメリットがあります。委員のみなさんからは子どもたちへのメリットとして「地域のよさを知り、地域への愛着が生まれる」「異年齢との交流ができる」「生きた教材や専門性を持つ地域住民から学ぶことができる」、地域へのメリットとして「子どもたちに元気をもらえる」「つながりが防犯や助け合いにつながる」といった意見が述べられました。また、学校の教育活動に地域住民が参画することで先生と子どもが向き合う時間を確保し、学校の教育活動がより充実していくことを考える場となりました。

この熟議を受けて、「南山形小学校見守りサポーター」が給食の時間と清掃の時間の児童の安全を見守るという地域学校協働活動が生み出されました。

令和7年1月28日、南山形小校長と学校運営協議会会长の連名で地域住民への募集を行いました。

取材を行った2月21日、4名の地域住民が登録をして活動していることを聞きました。この日のサポーターの参加者は2名。給食の運搬を行う児童の安全を見守ったり、清掃時の安全を見守りながら清掃用具の上手な使い方を教えたりしました。

参加した地域の方のお話

- ・自分の子ども、孫が学校にお世話になった。学校の力になりたい。
- ・子どもたちがかわいい。エネルギーになる。元気になる。
- ・体を動かす機会になる。階段の昇り降りをするので体力がつく。
- ・もっとたくさんの地域住民が参加するようになるといい。声をかけてもらうと参加しやすい。
- ・ずっと続く活動にしていきたい。
- ・先生は本当に忙しい。給食を食べる時間がほとんどない。

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」の実施状況及び成果・課題

【学校運営協議会に関すること】

○学校運営協議会の開催数

51校で148回（各校で2～5回実施）

○熟議のテーマ

- 「地域とつながる学校のあり方」「山形に根差したウェルビーイング」
- 「〇〇地区の自慢について～〇〇地区と子どもたちが一つになる～」
- 「地域を学ぶ教師、地域の中で育つ子ども」「放課後の子どもの居場所について」
- 「少子化に伴う今後の教育活動のあり方について」「育てたい力について」など

【地域学校協働活動に関すること】

○地域学校協働活動推進員の配置校数

39校（令和6年度は第六小学校、南小学校、楯山小学校、第二中学校、第六中学校に配置）

○地域住民等の参画者数（令和6年4～令和7年2月まで）

3,431人

【社会教育青少年課の取組】

○「地域とともにある学校づくり研修会」の開催（教職員等23名）

○「学校を核とした地域づくり研修会」の開催（推進員等41名）

○出前講座の実施（26回）

○視察・取材の実施（学校運営協議会27回、地域学校協働活動13回）

○地協ニュース「ときたまご」の発行（8号）

○地域学校協働活動推進員情報交換会の実施（5/24、9/19、2/21）

【成果と課題】（学校・地域学校協働活動推進員年度末アンケート結果より）

○成果

- ・子どもたちの「地域への愛着」や「地域の担い手としての自覚」の意識向上
- ・授業づくり（授業や教育活動の充実）
- ・地域の教育力の向上
- ・地域住民同士のネットワークの広がりや深まり

○課題

- ・保護者や地域住民への周知
- ・地域の人材発掘・人材確保（学運の委員や地協推進員、地域ボランティア等）
- ・地域づくりへの活用

令和6年度をふりかえって

今年度は「社教ニュースときたまご」として「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」に加え、高校生や成人を対象とした事業や公民館事業など、より幅広く社会教育に関する情報を伝えてしまいました。皆様が「子どもと学校、地域の未来を創る当事者」となって、地域に学びの場が創っていただいていることに深く感謝いたします。